

enocoのそうだん [eno so done!]

## 相談シート07 市民が長年続けてきた文化イベントを改革することの難しさ

[トップ](#) >> [enocoのそうだん \[eno so done!\]](#) >> [相談シート07](#)

### アドバイザー

忽那 裕樹 (enocoプラットフォーム部門チーフディレクター/E-DESIGN代表)

1966年大阪府生まれ。庭園をはじめ公園や広場、大学キャンパス、商業・集合住宅・病院などのランドスケープのデザインとプログラムを国内外で展開。また、パークマネジメント、タウンマネジメントを通して、地域の改善や魅力向上に様々な立場で関わっている。enocoのプラットフォーム形成支援事業を手掛けるとともに、民主導の水と光のまちづくり推進組織「水都大阪パートナーズ」のプロデューサーとして数々の事業の企画・運営を推進中。



### 相談者

大阪府某市

### 相談分野 (キーワード)

[地域活性](#)[市民協働](#)[観光](#)[まちづくり](#)[文化](#)[広報・PR](#)[その他](#)

### 主な相談内容

当市では「市民まつり」を毎年開催しているが、イベント内容のマンネリや参加年齢層の高齢化・参加者の固定化が課題として上がっている。まつりを継続すべきかどうかも含めて検討しているが、変革が難しい。

#### Q 1

市民主体で開催してきた祭なので、体制を変えることはこれまでの祭を否定しているように捉えられかねないので、行政側からなかなか言い出せない。

#### A 1

体制を転換するのか祭を止めるのか、市民に選択させなければならない。転換するならば、まず若者の声を拾うネットワークをつくる必要がある。そして彼ら次世代からもち上がってきた提案は、出来る限り実現するというスタンスをもつ。そして市長などの立場にある人から、体制を変えていかなければ今後はない、という話をはっきりすべき。

第3者の視点を入れる意味で、「余所者、若者、馬鹿者」というのは有効な手段。

#### Q 2

新しい企画の公募を行っても、数件しか応募がなく効果がなかった。

#### A 2

事前のヒアリングが重要。例えば市民協働系のNPOをまわって困っていることはないか聞きつつ、こんな市民祭があったらといったアイデアを引き出し、ヒアリングを反映した公募内容にする。このようなヒアリングを重ねることは、それ自体が効果的な広報活動にもなる。

## 相談者の声

これまでと違う発想で、関係団体との関わり方を考え直せると思いました。特に市民のやりたいことを引き出し、役所からのお願いではなく「自分のやりたいこと」なら責任をもってやってもらい、決して役所からは追いかけないとのアドバイスが強く印象に残りました。

## その後の動き

...

サイトポリシー・  
プライバシーポリシー

指定管理者

バナー広告募集

> enocolについて

> 事業紹介

> フロアガイド

> レンタルスペース

> お知らせ・プレスリリース

> メルマガ登録

> ニュースレター

> お問い合わせ

> アクセス

いいね! 0

ツイート

